啐啄 そったく

平成28年10月7日発行
http://www.osakasayama.ed.jp
gakkou@city.osakasayama.osaka.jp

大阪狭山市教育委員会 学校教育グループ １１９号

学習意欲を高めるＩＣＴの活用をめざして ～学校づくり応援事業～

ICT = Information and Communication Technology の略。一般に情報通信技術と訳されます。

児童･生徒にとっての“魅力ある学校”を築くために“学校づくり応援事業”を進めています。その中で大阪大学 西森 年寿准教授の指導を受け、ICT の効果的な活用について研究を続けています。

8/30 には南第三小学校の先生たちが“iPad の基本操作”を中心に様々なアプリケーションを体験しリテラシーを高めていきました。 そして、「学習の質を更に高めたい」…こんな先生たちの願いと ICT 活用の可能性が広がる研修でした。ICT を活用した授業は、12/2 の“まるごとパック研究発表会”において公開予定です。

iPad 操作を興味深く学びました。（南三小）

9/8 には南第二小学校で実施され、岡田守人首席から、算数の授業で ICT を積極的に活用し、効果を高めている実践事例が分かりやすく示されました。その後、西森准教授の指導による“iPad”を用いた実技研修が行われ、熱心に研修を受ける先生の姿勢からは、ICT の活用を一層広げていきたいとの意欲を感じました。

ICT 機器の可能性を実感しました。（南二小）

安全で達成感の高まる組体操に ～指導方法研修会～

苦手に思う子どもを想定して考えます。

大阪狭山市では、今年度当初から「組体操の実施に係る検討会議」を継続的に開催し、“子どもたちの安全と組体操の持つ教育的価値”の視点から学校と綿密に協議してきました。そして、その内容を“安全な組体操を実施するために”としてまとめました。

さらに、この内容に沿った安全指導が各校で円滑に進められるよう、実技研修会を 8/30 に行いました。

研修会では、大阪教育大学 井上功一准教授と大阪狭山市教育研究会体育部会１３名の教員による、段階を追った丁寧な指導が行われ、約６０人の参加教員の動きや表情は真剣そのものでした。

熱心にメモを取りながら学ぶ先生たち。

井上先生からは「組体操でしか味わえない団結感･成就感があり、力を合わせ困難を克服し作り上げていく喜びは子どもの成長に良い影響を与えます。だからこそ『どこが危険なのか。どんな事前準備が必要なのか』個々の技について、指導のポイントを十分検討した上で実施することが求められます。『運動に怪我はつきものではなく、防がなければならないもの』です」と助言を受けた後、特に配慮を要する 10 種の組体操を、実技を通して具体的に学ぶことができました。

ふるさとへの愛着と誇りを実感 ～郷土の歴史学習を通して～

ふるさとを愛し誇りに思う心の育成は、自己を形成する上で大きな役割を果たすことが知られています。このような観点からも大阪狭山市では「ふるさと さやま」をテーマとする学習を積極的に進めています。

9/6 東小学校では、大阪府教育庁文化財保護課から専門家をお招きして、６年生を対象に『狭山藩陣屋跡の文化財について』の学習が行われました。

「文化財って、どんなものかわかるかな？」･･･導入で古墳や土器などが写真パネルで紹介された後、出土した瓦･陶磁器の実物に触れ、東小学校の校章や陣屋跡の碑と関連する狭山藩北条氏の話を聴くことができました。

写真パネル･遺物･地図…たくさん準備物が用意されました。

また、東小学校周辺の現在と当時の地図を比較･発見･発表する学習活動では･･･「今歩いている道は昔もあったんだ！」「上池は東小学校の一部になっていて、下池は東幼稚園の北に今も残っているよ」「陣屋には大きな家や小さい家、裁判をする場所もあるよ」等･･･子どもたちが次々に発見し、発表していきました。

陣屋の平面図と東小校区の地図から気付いた点をまとめます。

自分たちが暮らす地域の歴史に触れ、先人とのつながりを感じることで“さやま”への愛着が深まったようでした。

輝くあなたを見たい！ 中学校体育大会

歓声と拍手。励まし合い、声援を送り合い、喜びと悔しさを共有し連帯感を肌で感じる…そんな印象に残る体育大会が 9/30(金)に繰り広げられました。

第三中学校

生徒代表の決意

負けないぞ！

声援に応えたい！

南 中 学 校

力を出しきります

手強い！

かわいい園児と入場

狭山中学校

気持ちをそろえて！

バトンを次の走者に

跳ぶぞ！大縄！

課題を明確に気持ちを揃えて推進を ～教育課程連絡協議会～

９月２日に実施された「教育課程連絡協議会」はⅠ部～Ⅳ部構成で進められました。各校の管理職をはじめ５０人の出席者からは、次期学習指導要領改訂や今後の課題を正面に見据え、気持ちを揃えて取り組もうとする熱意が伝わって来ました。

Ⅰ部.「全国学力･学習状況調査（小６･中３）」の大阪狭山市の結果を継年比較し、本市の児童･生徒たちの頑張りとそれを引き出している学習のポイントを“学力を育てる土台”としてまとめました

・クラスメイトと協力しながら進めている学習
・自分の良い点を認めてもらえている学習
・自分の意見を発表できる場のある学習

Ⅱ部.「全国学力･学習状況調査（小６･中３）」の大阪狭山市の結果分析を踏まえて、学力との関連が強いと思われる調査項目が提示されました。

■授業づくりの視点から

自分の考えを深める･広げる･発表する･話し合う･目的に応じて資料を読む･根拠を示して書く･うまく伝わるよう話しの組み立てを工夫するなどを採り入れた**“主体的･対話的な学び”は、国語と算数（数学）の基礎力･活用力を共に育てます**。

■読書習慣の視点から

小･中学校間での効果的な取組みを共有することで言語能力の基礎が養えます。

■家庭学習の視点から

宿題･予習･復習を児童生徒が計画的に進めることで学ぶ意欲が高まります。

Ⅲ部. 学習指導要領改訂の全面実施（小はH32年度~･中はH33年度~）についてその動向を学びました。この改訂では「指導内容(何を学ぶのか)」に加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から見直されています。殊に、アクティブ･ラーニング（ＡＬ）の３つの視点『**主体的な学び･対話的な学び･深い学び**』についての正しい理解が必要です。

Ⅳ部. 中学校区別のグループ交流会では「子どもたちの育ちを確かなものにする綿密な連携の必要性」「中学校区で子どもを育てる視点の必要性」が改めて共通認識されました。

子どもの学習･意識･生活などの現状把握と今後の方向性や課題を学び合うことで、学校教育の充実をめざす取組みに弾みがつきました。

さやまっ子の夢をふくらませる 『子ども白書２０１６』の作成をめざして

今年度から、さやまの小･中学生の現状と課題を把握するために「子ども白書プロジェクト」を立ち上げて、さまざまな調査を総合的に分析しています。

9/5(月) 第２回目の会議では、関西大学の若槻先生･大阪大学の前馬先生･校長会代表･各学校からの教員と市教委指導主事･アドバイザーの１５名が集まり、全国学力･学習状況調査等の結果概要を共有した後、さやまの子どもの「いいところと気になるところ」について話し合いました。

お二人の学識経験者からは「さやまの先生たちの取組みに対する意識の高さが、成果につながっている」「更に、さやまの子どもたちにどんな力をつけたいかをまとめ、気持ちを揃えて取り組むことが大切」との助言をいただきました。次回は１０月に実施します。